8月号

塾だより

発行 2020.7.22 編集 山口学習塾 山口将志 樋口淳一 天沼龍一

今月号のトピックス

- ・夏期講習に関して
- ・入試範囲の削減に関して
- ・ 山口学習塾に来て思うこと (天沼)

夏期講習に関して

- ・本年度の夏期講習は中3生のみ行います。期間は8月1日~8月11日です。他の学年は通常授業を行ってまいります。(中3生も夕方以降は通常授業を行います。)
- ・中3生の夏期講習期間中の流れ

10:00~13:10 授業

13:10~14:00 昼休憩

14:00~17:10 授業

17:10~18:10 夜休憩

18:10~22:10 自習or通常授業

・お盆休みは8月12日~16日になります。

山口学習塾に来て思うこと

「何かに挑戦して確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦 するだろう。 報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続しているのは非常に大変なことであり、私は、それこそが"才能"だと思っている。」

--羽生善治(将棋棋士)

3月。まだ残る冬の冷たさと春の訪れを肌で感じながら、私は「山口学習塾」に来ました。突然やってきた私に、皆さんの顔が緊張していたのを思い出します。……私も緊張していました。新しい職場。新しい生徒。期待と不安。自己の改善点や覚える諸々の事。それらを拾い集めて、さぁ走り出そうとした矢先に——コロナによる学校一斉休校。

--今。季節は夏を迎えつつあります。

恥ずかしながら、ようやく担当する生徒ひとりひとりの顔と名前、そして勉強に対する個性や姿勢が見えてきました。完璧主義な子。とにかく課題を速く終わらせる子。頑張っているのに英単語の暗記が苦手な子。指導した問題の解き方が頭に入っていない子。プリントの消化が遅い子……などなど。当たり前ですが長所・短所ともに様々な生徒が在籍しています。しかし、テスト対策期間に入った途端、私は驚きました。

「山口学習塾」の生徒達は皆 "全力で何とかしよう" としていたからです。 自分の弱点から目を背けず、わからないことは質問し、黙々と、長時間、 机に齧りついて、必死に戦っている姿。

それは、とても美しい光景でした。

私は皆さんの勉強向かう眼差しと熱意。満足しない「向上心」と「できないことへの悔しさ」。そして「点数の成長」を目にすることができて――胸が震えました。

あぁ、この子たちには"才能"がある。

だから、点数が伸びた生徒や自力で出来るようになった生徒をたくさん褒めました。集中していない生徒や課題を放置したままにしている生徒を全力で叱りました。私も全力で向き合ったからです。そして皆さんが頑張った分の、成果を実らせてあげたかったからです。

テスト前。不安そうな表情を浮かべる生徒が数名いました。その時、私は「その抱えている不安が消えるまで勉強しなさい」と声をかけました。 けれども、実は。私は心の中ではこう思っています。

大丈夫。君たちには"才能"がある。その不安は成長痛みたいなものだ。いま成長している最中なんだ。「向上心」の炎を絶やさず「自分の意志」で行動すれば、君たちは、さらにさらに成長できる。強くなれる。そうすれば、どんな問題だって解決できる。

そのために勉強しよう。そして、テストで必ず勝とう。見せてやるんだ。 「山口学習塾」でどれだけ自分が学んだのかを。

大丈夫。君たちなら"できる"。

(天沼)

入試範囲の削減に関して

先日、埼玉県教育委員会から来年の公立入試範囲の削減が発表されました。

下の表が発表された削減範囲です。

教科	配慮の内容
国語	次の内容は出題しない。 ・第3学年における言葉の特徴やきまりに関する事項のうち、慣用句・四字熟語などに関する知識 ・県内市町村立中学校で使用している第3学年の教科書で学習する漢字の読み書き
社会	公民的分野において、次の内容は出題しない。 ・私たちと経済 ・私たちと国際社会の諸課題
数学	次の内容は出題しない。 ・相似な図形のうち、日常生活で相似な図形の性質を利用する場面 ・円周角と中心角 ・三平方の定理 ・標本調査
理科	第1分野において、次の内容は出題しない。 ・科学技術と人間 第2分野において、次の内容は出題しない。 ・地球と宇宙 ・自然と人間
英語	次の内容は出題しない。 ・関係代名詞のうち、主格の that、which、who 及び目的格の that、whichの制限的用法(接触節も出題しない。) ・主語+動詞+what などで始まる節(間接疑問文) ※ただし、教科書で扱う語彙はすべて出題範囲とする。

塾のブログでも書きましたが、正直なところビックリしました。 おそらく県内の学習塾業界に携わる人は全員驚いたと思います。 (もしかしたら学校の先生も驚いたのではないでしょうか。) そのくらい削られています。

さて、この削減に関して塾ではどのように対応していくか。 入試問題の性質上、学校選択問題採用校受験予定者(Aクラス)と 学力検査問題採用校受験予定者(Bクラス)で対応を変えていきた いと考えています。

まず、Aクラスに関しては数学・英語については例年通りの履修 範囲をすべて学習します。というのも、学校選択問題レベルの問題 に立ち向かうには、全国の過去問をたくさん解かないといけないか らです。英語にしても数学にしても、中途半端に学習内容を削って しまうと過去問演習が出来なくなってしまいます。

もちろん「試験で出ない範囲を勉強するのは…」という気持ちも分かります。しかし、過去問演習の量が減ってしまうことは、学校選択問題レベルに実力を引き上げるうえでかなりのデメリットになってしまいます。残りの範囲の学習と言っても、英語はすでにあと一単元のところまで学習していますし、数学も残り単元の学習にはあまり時間を使わずに進めていきます。

一方でBクラスは、削減内容に関しては基本的に教えません。試験に出ない内容を学習することで不要に混乱するのを避けるためです。とくに例年、多くの受験生が混乱をきたす関係代名詞や間接疑問文が削減されることはメリットと捉えて欲しいと思います。その文法内容が出題されない英語長文や文法問題を選んで学習を積み重ねていくつもりです。削減された内容の学習が心配であれば、ぜひ受験が終わってから塾に勉強に来てください。いくらでも質問に答えます。Bクラスはまずはしっかり高校入試を勝ち切るところに全力を傾けたいと思います。

理社については削減内容に関しては学習せずに、その分の時間を 入試対策に使います。(こちらも高校入学までに心配であれば受験 終了後に塾に勉強しに来てください。しっかりやれば一カ月あれば 余裕で終わります。)

初めてのことが続き、ネットのニュースやSNSでいろいろ騒がれたりしますが、入試範囲削減についてはそんなに心配しないでください。目の前のことを一つずつ、着実にやっていけばしっかり入試で勝つことができるはずですから。